特別寄稿

Florence Nightingale を訪ねて
―2020 英国研修報告―

水戸　美津子[*1]　野原　真理[*1]　梅村　美代志[*2]　小倉　邦子[*2]　駿河　絵理子[*2]
髙山　詩穂[*2]　小林　れい子[*3]　山田　恵子[*3]　滝　恵津[*3]

1．はじめに

私が初めて London の St. Thomas' Hospital と Florence Nightingale Museum を訪れたのは、2011 年 12 月だった。St. Thomas' Hospital はすでに新しい建物となっていたが、病院の 1 階には Florence Nightingale（以下、F. Nightingale）像や写真などが展示されていた。病院の正面に向かって右側には旧病院の建物の一部が残っており、そのさらに右側には小道を挟んで River Thames が流れていた。その対岸には、London を象徴する Big Ben を望むことができた。その光景にかつて F. Nightingale の著作の挿絵にあった日光浴療法としてベッドを川沿いに並べた情景が思い出され、冬の凛とした空気の中で、ここから近代看護が始まったことを感慨深く思った。

その後、私は聖徳大学に着任し、ある非常勤講師（医師）の方から「ここの学生さんは、F. Nightingale のことを知らないんですね」とご指摘を受けた。また、現職看護師の大学院生で「看護覚書」を読んだ記憶がないという人もいた。これには少なからず衝撃を受けた。F. Nightingale は日本では一般にはクリミアの天使として知られているが、実際は看護師、教育者、統計学者、疫学者として活躍した人である。クリミア戦争での直接的な看護を指揮しただけではなく、統計と科学的根拠に基づく衛生環境の改善を行い、傷病兵の死亡率を激減させている。戦地から帰国後は英国の衛生環境改善のために貢献し、その功績は高く評価されている。看護においては学祖として「看護覚書」「病院覚書」等で看護の普遍的で原理的な考えを示し、多くの著書を残している。

本学部のこれからの教育を考える一つの契機として、さらには教員一人一人が看護や教育を再考する機会として F. Nightingale の足跡を訪ねる研修を企画した。私を含めて 9 名の教員が参加した。研修先は、F. Nightingale とゆかりの深い London を中心に St. Thomas' Hospital、Florence Nightingale Museum、Kings' College London、St. Margaret's Church、Harley Street、Royal College of Nursing などであった。また、2020 年は F. Nightingale 生誕 200 年にちなみ世界各国で生誕日 5 月 12 日を中心として様々な記念イベントが企画されていたが私たちの研修中の 2 月には何のイベントもなく残念に思っていた。しかし、幸運にも 5 月予定の講演を事前に拝聴できるという貴重な機会を得ることができた。さらには Scotland の都市 Glasgow にある Glasgow Caledonian University（以下、GCU）でのシミュレーション教育の一端にも触れることができた。本学部もシミュレーション教育に力を入れておりハワイ大学のシミュレーション教育をモデルとしているが、GCU での異なる観点からのアプローチについても見聞できたことは大変有意義なことであった。

ここに視察の内容と帰国後文献等で検討したことも含めて報告する。（水戸美津子）

2．英国の医療制度を知ることから
―Glasgow Caledonian University（GCU）―

2020 年 2 月 23 日の夕方 Scotland の西に位置する

＊1：看護学部教授／＊2：看護学部准教授／＊3：看護学部講師

Glasgowに到着した。Glasgowに向かうバスの中では、現地ガイドから、1800年代後半に石炭酸を用いた消毒の研究により防腐手術法（後の無菌手術法）を確立したJoseph Lister（グラスゴー医学校教授）のことや、1974年にGlasgow大学で発表され臨床において世界的に広く使用されている意識障害の分類Glasgow Coma Scale（GCS）の地であることの説明があり、Glasgowへの関心が一気に高まった。

私たちの研修は、GCUにおいて、Dr. Gordon Hillから英国の医療制度についてのlectureを受けることから始まった。

（写真1）NHS Scotland14区分の地図が示された

1）英国の医療制度と公衆衛生看護活動

18世紀半ばから19世紀にかけて起きた産業革命時代の英国では、人口過密の地域ができ、同時に社会的弱者が集まる貧困地区も生まれた。そしてこの背景下1846年に世界で初の「公衆衛生法」が制定され、疾病と貧困の問題を解決するために公衆衛生活動が開始されたのである[1)]。1859年にWilliam Rathbone（政治家であり資産家でもあった）によって行われた貧民救済のための訪問看護活動は、「最初の公衆衛生看護事業」と言われている。Liverpoolを18地区に分け、各地区に看護師と一般婦人（lady visitor）の組み合わせを配置し、病人の看護と同時に家庭内の健康教育および生活改善を図るものであった[2)]。実はこの事業には、私たちが尊敬してやまないF. Nightingaleも深く関わっている。William Rathboneが、看護を専門職とする看護師を育成するために、彼女にアドバイスを仰いだからである[3)]。平山[2)]は、「F.Nightingaleは“病人の看護と健康を守る看護(1893)”の中で、地区看護師（District Nurse）は病める人の看護師であると同時に健康の伝道師であるべきことを強調している」と述べている。

そして、公衆衛生法制定から100年の時を経た戦後1948年には、国民の医療ニーズに対して公平なサービスを提供することを目的としてNHS（National Health Service）が設立された。NHSは、日本における国民皆保険と比較されることもあるが、日本が保険料と公費を財源とした社会保険モデル（共助）であるのに対し、英国は、税金を財源とした国営医療モデル（公助）である。このシステムには英国国家予算の25.2%が投じられており、基本的に国民の医療費の自己負担はない（歯科・処方薬などは有償）。病院はすべて国営で、都市部に集中し地方に不足することがないように整備されている。説明を受けて、この医療制度が、まさに時代時代の社会状況を反映してなお、今日まで継続されてきたことが確認できた。またNHSは外国人でも合法的に英国に滞在していると認められれば、利用することができる。このことはEU（European Union）の多くの外国人が、労働者として英国に移住してきたことが影響している。英国は、ちょうど私たちが訪ねるひと月前（2020年1月31日）にEUを脱退したが、経済はもとより労働力への損失が大きいことの説明を受けた。

また英国においては、このNHSが浸透する一方で、各地方には民間医療機関も存在し、国民の約12%はprivate保険に加入しているとのことであった。

2）Glasgowの地域特性と医療制度

前述の英国に公衆衛生を開花させた人口過密の状態は、工業と造船業で栄えたGlasgowにも当てはまり、川向うの貧困地域は現在でも治安が悪く、大人の麻薬やアルコール依存症、子どもの肥満や食事の偏りなど様々な健康問題があることの説明を受けた。

そして、Glasgowが属するスコットランド（NHS Scotland）も、public（公的な）財源によって営まれている医療システムと、private（民間の）財源によって営まれている医療を持っている。NHSは地方分権制をとっており、英国保健省は、地域に必要な医療サービスに基づいて、3年ごとにNHSのフレームワークや予算を策定している。そのため地域によって医療政策や医療設備が異なっている、ということであった。

3）NHSの受診システム

NHSは、その人が住んでいる住所から徒歩圏内に

ある GP（General Practitioner：家庭医、一般医、総合診療医）をかかりつけ医として選択し、登録を済ませることから始まる（General medical services）。医療サービスを受けたい場合には、まず GP に受診の予約をし、診療を受けることになる。GP は Primary care を担当しており、必要に応じて Consultants（専門医）を紹介する。日本の場合は、風邪で大学病院を受診することが揶揄されたこともあったが、現在では病診連携が図られ、住み慣れた地域で暮らす、という地域包括ケアシステムの考え方が拡がってきている。英国では、子どもはどのような場合でも、すぐに診てもらえるが、大人は、予約して受診までに数日かかるそうである。手遅れになることがなければよいが…。お金があれば private 保険で、スピーディに受診することも可能である。ここに経済格差が出てくることが考えられた。

4）研修所感

「公衆衛生看護学」の授業で、F. Nightingale が「地域看護」を最初に唱えた人であることを学生たちに伝えると、教室は少しざわつく。今回公衆衛生の発祥の地である英国を訪れて、F. Nightingale も生きた時代に公衆衛生看護活動を実感することができた。そしてその精神を引き継いだ NHS の保健医療システムが現在も運用されていることや、英国における GP の存在が、近年在宅ケアにシフトしている日本の様相と重なり、両国の深いつながりを感じざるを得なかった。看護の先駆者たちの足跡や、現代につながる歴史に学ぶことの意義を再認識するとともに、世界のどこの国においても公衆衛生看護活動に期待される役割が共通であることが、自分の中でストンと落ちた研修となった。（野原真理）

（写真 2）Glasgow の雪と芝生（バスの車窓から）

（写真 3）
写真は Scotland 国旗；St. Andrew`s Cross. これに England の St. George`s Cross. Ireland の St. Patrick`s Cross. が組み合わさると Union Jack になる

3．F. Nightingale との強いつながり ー St. Thomas' Hospital と Florence Nightingale Museum ー

1）St. Thomas' Hospital の概要

St. Thomas' Hospital は、NHS の教育病院（teaching hospital）であり、London を象徴する国会議事堂の時計台、通称 Big Ben から River Thames をはさんだ対岸に位置している（Westminster Bridge Road, London）。2020 年 4 月には、Boris Johnson 英国首相が、新型コロナウィルス感染症で集中治療室に入院したことが報道された。英国の医療の最先端を担う代表的な病院の 1 つである。

（写真 4）St. Thomas' Hospital（外観）

2）St. Thomas' Hospital の歴史

St. Thomas' Hospital は London の古い病院の 1 つで、12 世紀以降、病人や困窮している人々に避難所と救済を提供してきた[4)]。1215 年に現在とは別の場所である Southwark 地区に設立された。病院の名称は、聖職者である St Thomas Becket（1173 年没）に由来しており、このことから 1173 年以降に設立とされているが、名称が変更されただけで、それ以前に

も修道院内に病院が実在していた可能性も示唆されている。

古い病院の敷地は、鉄道線を延長することから建物を取り壊さなければならず、1862年にSouthwark地区を去り、移動して新病院を模索し、適切な恒久的な場所として現在の場所に1871年に開設された。

3）F. NightingaleとSt. Thomas' Hospital

1860年にF. NightingaleはSt. Thomas' Hospitalに世界初のナイチンゲール看護学校（The Nightingale Training School St. Thomas' Hospital）を設立し、職業としての看護の評価を高めた[5)]。F. Nightingale自身は病気のため実務を執ることが難しく、校長はSt. Thomas' Hospitalの看護師長のSarah Elizabeth Wardroperに依頼している。学校ではSt. Thomas' Hospitalの医師や看護師長による講義があり、病院では見習い看護師として、細かな実習指導を受け、学寮（Home）では、厳粛な生活態度が求められていた。修了生はF. Nightingaleによって看護師長あるいは総監督として他の病院に任命され、新たな看護師の育成に励まなければならなかった[6)]。

F. Nightingaleは、1871年に建てられたSt. Thomas' Hospitalの病棟の設計にも影響を与えた。より良い光と換気ができるように高さのある窓を設置した。南病棟は、ナイチンゲール病棟の典型として知られていた。病棟は奥行きが35 m以上あり、30台のベッドが中央を開けて15台ずつ左右に向かい合っており、ベッドの間隔は2 mはあり、各ベッドの頭側には大きな窓がついている。2列に並ぶ30のベッドの中央にナースステーションが設置されている。残念ながら、100年以上の歴史を誇っていた南病棟は、プライバシーを重視する現代社会では受け入れられず、1987年に解体された。現在のSt. Thomas' Hospitalには、ナイチンゲール病棟（Nightingale Ward）の名称を有する病棟があり、24床の消化器外科病棟となっている。

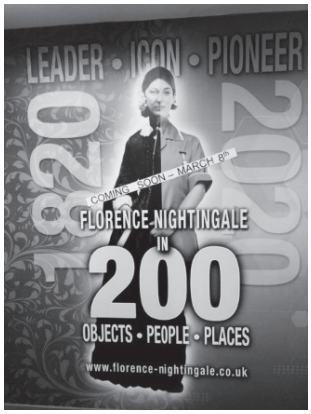
4）Florence Nightingale Museum

現在のFlorence Nightingale Museumには、約3000点の所蔵品があるが、その多くは、St. Thomas' Hospitalの看護師長であったDame Alicia Lloyd-Still1によって1913～1937年に収集され、St. Thomas' Hospital内のナイチンゲール看護学校で展示開催されNightingaliaとして知られていた。その後、1954年にクリミア戦争100周年を記念してRoyal College of Surgeonsで、1960年にナイチンゲール看護学校100

（写真5）St. Thomas' Hospital（年代不明）

（写真6）Florence Nightingale Museum（外観）

Nightingale Ward（年代不明）



Nightingale2020（館内展示）

Florence Nightingale's pet owl
"Athena"（ふくろうのアテナ）

周年で、1970年にF. Nightingale150周年で公開された。1983年にFlorence Nightingale Museum Trustに信託され、1989年にナイチンゲール看護学校のあった、St. Thomas' Hospitalの敷地内にFlorence Nightingale Museumが開設された[7]。F. Nightingaleの手紙、ランプを持つ貴婦人の呼び名を象徴するランタン、クリミアから持ち帰った薬箱など、貴重な所蔵品が、興味深くディスプレイされており、彼女を近くに感じることができる。代表的な著作「看護覚え書」(Notes on Nursing, 1859）の初版本の展示があり、F. Nightingaleがポケットに入れて持ち歩いていた鳥のふくろうの「アテナ」にも会うことができる。国内外から多くの人々が来館し、特に国内では児童生徒の校外授業の場として活用されている。

2020年はF. Nightingale生誕200年の記念展示があり、私たちが研修で訪れた2月には、その準備をしている段階であった。

5）研修を終えて

St. Thomas' Hospitalは、残念ながら外観のみの見学であったが、F. Nightingaleがクリミア戦争での活躍の後、クリミア熱といわれる病の中でナイチンゲール看護学校を設立し、また現存はしていないが、病棟の設計に関与した病院の地に立つことで、古のF. Nightingaleの思いに触れることができたように感じる。Florence Nightingale Museumでは、数多くの展示品の「本物」の迫力に魅了された。生誕200年、没後100年以上経過しているとは思えない、F. Nightingaleの考えや行動の普遍性と斬新性を再認識する体験となった。また、英国研修終了後の2020年4月に、日本で絶版になっていた『セント・トマス病院物語』（1974年第1刷発行）と『聖トマス病院ナイチンゲール看護婦養成学校100年のあゆみ』（1973年第1刷発行）が合本され、『ナイチンゲールとセント・トーマス病院』[8]として、F. Nightingale生誕200年記念で復刻新装版が出版されたことで、日本語で貴重な知見に触れることが可能となった。

St. Thomas' Hospitalのホームページには、「F. Nightingaleとの強いつながりを非常に誇りに思っており、卓越した思いやりのあるケア（outstanding compassionate care）を提供するという彼女の遺産を築き上げることは非常に重要です」と記されている[5]。遠く日本にあっても、彼女の遺産をさらに築き上げていくことに寄与していきたいと思える研修であった。（小倉邦子）

4．統計を駆使して英国の医療衛生改革を成し遂げた功績をたたえて
―クリミア戦争とF. Nightingaleの医療衛生改革―

私たちはLondonのJames Streetにあるクリミア戦争記念碑（Crimean War Memorial）を訪れた。

1）クリミア戦争でのF. Nightingaleの活躍

クリミア戦争記念碑は、クリミア戦争での連合国の勝利を記念して1861年に建立された。当初は3人の衛兵像と栄光の女神像（写真7奥）のみであったが、1914年にF. Nightingale像（写真7手前）とSidney Herbert像（写真7の右側に設置されている）が共に建立された。

クリミア戦争（1854年−1856年）は、南下政策のためトルコに攻め入ったロシアと、ロシアの覇権拡大を阻止する英国・フランスとの連合国軍間で争われた。クリミアの野戦病院の状況は「傷病兵が十分な医療・看護を受けられていない」と、タイムズ紙によって伝えられた。当時の戦争大臣Sidney Herbertは、Harley Streetの医療施設群で親交のあったF. Nightingaleに、看護団の結成と野戦病院への派遣を依頼した。F. Nightingaleは38人の看護団を結成し、開戦から8か月後の11月、野戦病院のあるScutariに赴いた。

F. Nightingaleに関する伝記[9)〜11)]によると、当初の野戦病院の状況は、凄惨な現場であったと記されている。戦場からは次々に傷病兵が運ばれたが、すべての物資や人員は不足していた。病院内は清掃されることなく、ネズミや害虫がはびこり、傷病兵の着衣はノミやシラミであふれていた。替えの衣類

（写真7）
F. Nightingale像の前で集合写真

（写真 8）野戦病院での Nightingale, St. Margaret's Church 展示

はなく、洗濯が行われることはなかった。傷病兵の食事は、不衛生な調理具で作られ、腐りかけの肉を無造作に煮たものであり、生煮えで冷めていた。下水溝からは汚物があふれていたため、病棟内に排泄用の桶が設置され、そこへ直接排泄された。あたりは汚物の臭気が漂っていたが、病棟の窓は小さく低い位置にあり、換気のために開けられることはなかった。病院は下水溝の上に建てられており、給水設備は動物の死骸の上を通り、排泄物が流入していた。病院内は、赤痢やコレラ等の感染症が蔓延していた。傷病兵は、隣との間隔がわずか 30cm の藁布団に横たわり、十分な医療を受けられないまま、死を待つのみであった。

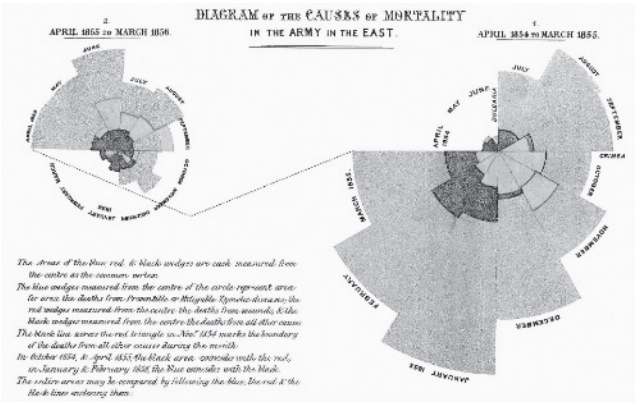
野戦病院での傷病兵の看護は、当時は男性の衛生兵が行うことが一般的であった。軍医らは、F. Nightingale ら女性看護団の派遣を快く思わず、当初は F.Nightingale らに看護の許可を与えなかった。そのため、F.Nightingale らの最初の仕事は、傷病兵に温かく栄養のある食事を与えることであった。野戦病院では物資の物流が滞っており、F.Nightingale は私財やタイムズ基金を用いて、ありとあらゆる物資を調達・管理を行った。洗濯場を設置し、兵士たちの妻を洗濯業務にあたらせた。物資の調整と清掃により、傷病兵へ清潔な衣類やベッドを提供することができた。時には死を迎えた傷病兵のために手紙を代筆し、亡くなった際は家族へ手紙を送付した。夜間、F. Nightingale はトルコランタンを持って、6km ほどある病院の廊下を端から端まで巡回して傷病兵の看護にあたった。病に苦しむ傷病兵にとって、夜間ほど孤独で心細くなる時間はないだろう。F.Nightingale のこの働きは、後にランプの貴婦人と呼ばれる所以となった。また、傷病兵のために娯楽施設として読書室や珈琲館を設置した。野戦病院での F. Nightingale らの活躍は、タイムズ紙や帰国した兵士らによって英国本国に広く知れ渡り、多くの支持を得た。F. Nightingale は、野戦病院で自身も病に倒れながら一命を取り留め、すべての傷病兵の帰国を見届けたのち、ひっそりと英国に帰国した。

（写真 9）
トルコランタン，
Florence Nightingale Museum 所蔵

私たちがクリミア戦争記念碑を見学していると、日本からの旅行者と遭遇した。F. Nightingale 像の前で写真撮影をする彼女たちと話をすると、看護学生の卒業旅行であった。看護師を職業として選択したもの同士が、英国の F. Nightingale 像の前で会えるという偶然に、感慨深いものを感じた。

2）F. Nightingale の統計学と医療衛生改革

クリミア野戦病院での傷病兵の死亡率は、1855 年 2 月 46.7％まで上っていた。1885 年 5 月に英国から派遣された衛生委員により、下水の整備や害獣・害虫の駆除、換気の改修が行われ、2.2％にまで減少した[12]。F. Nightingale は帰国後、統計学者 William Farrar Smith の協力を得ながら、野戦病院での傷病兵の死亡要因を分析した。その結果、傷病兵が野戦病院で死亡した原因は、創傷や栄養失調ではなく、多くが感染症によって死亡していたことが明らかに



（写真 10）鶏のとさかグラフ，St. Margaret's Church 展示

なった。F. Nightingale は、これらの事実を報告書にまとめ、傷病兵の死亡要因を鶏頭図とよばれる、当時ではめずらしい円グラフを用いて視覚的に表した。野戦病院の衛生環境の欠陥のために多くの兵士が亡くなった事実は、その後の F. Nightingale の医療衛生改革へと繋がった。

幼いころより数学に興味を持っていた F. Nightingale は、ベルギーの統計学者 Quetelet とも交流を持ち、死亡率や人口密度、疾病要因等を視覚的に表す統計学を駆使し、様々な衛生改革を成し遂げた。『統計学者としてのナイチンゲール』[12] には、英国陸軍病院の衛生環境は改善され、兵士の死亡率が大幅に引き下げられたこと、病院の疾病分類や在院日数等の医療統計の標準化を図り、英国の医療衛生改革に繋げていったことが記されている。1858 年 F. Nightingale は、王立統計学会（The Royal Statistical Society；1934 年に創設された英国の統計学会）の女性初の会員となった。さらに 1907 年 F. Nightingale は晩年（87 歳）、クリミア戦争での活躍から英国の医療衛改革等のこれまでの功績を称えられ、英国国王より女性として初めてメリット勲章（Order of Merit；軍事、科学、芸術、文学等への貢献があった個人に授けられる英国で最も名誉ある勲章）を授与された。（滝恵津）

5．世界で初めての看護師養成所の発祥の地にてー Kings' College London ー

2020 年 2 月 25 日、Ms. Nina Chakmagi - Programme Development Manager, Summer Programmes と Dr. Alexandra Heinz - Education Programme Lead Summer Programmes に Kings' College London の説明を受けた。

1）Kings' College London について

私たちが訪問した Kings' College London は、ロンドン大学群を構成するカレッジの一つで 1829 年にジョージ 4 世および初代ウェリントン侯爵アーサー・ウェルズリーによって設立された英国では 4 番目に古い名門校である。92 か国 1400 の大学を対象とした「World University Rankings2020」では 36 位と、教育・研究・国際性・収益性（産業からの収入）に優れた大学であり、これまでに 12 名のノーベル賞受賞者を輩出している。

特に医学分野の教育評価が高く、Kings' College London の看護学部は、看護学の分野で世界のトップ 3 を獲得したイギリス大学 2 校中 2019 年世界大学評価機関である英国の Quacquarelli Symonds 社による科目別世界大学ランキングで、最も優れた看護教育機関として 2 位に選ばれた。

王室との関係は深く、現在はアン王女が大学総長（chancellor）をしている。

2）Kings' College と F. Nightingale

（写真 11）Kings' College London 外壁の扉一面にある F. Nightingale の写真（筆者撮影）

（写真 12）2020 UNDERGRADUATE GUIDEp4 より転載

（写真 13）Kings' College London の外観と門扉（筆者撮影）

2020年はF. Nightingale生誕200年と記念すべき年であり、それを表していると思われるのがKings' Collegeの大学GIDEである。巻頭「学校の歴史」と書かれた欄に、「医学教育のルーツは、Tomas Becket（トーマス・ベッカー）らに因んで名付けられた1107年St.Thomas' Hospital、1860年にF. Nightingaleが設立したナイチンゲール看護学校、助産師、緩和ケアに遡ることができる」と紹介されている。

F. Nightingale以前にも看護はキリスト教徒の女性により行われており、1840年英国にはElizabeth Fryによって看護師の養成施設が設立されていた[13]。それよりも遅れ1860年にF. Nightingaleは、聖トマス病院にナイチンゲール看護学校（The Nightingale Training School St.Thomas' Hospital）を開設した。特筆すべきは、F. Nightingaleは看護を訓練が必要な特殊職業として明確に規定し、史上最初の組織的であるとともに独自の看護教育を行ったことである。「ナイチンゲールは看護を『実際的にかつ科学的な、系統だった訓練を必要とする芸術』と述べていたように、聖トマス病院看護婦学校における教育は、徒弟制度ではなく系統的に学ぶことの訓練を徹底的に」[14]行うものであった。「カリキュラムは理論と実践を系統的に結びつけたもので、教室では講義や試験が行われ病院では病棟の看護師の指導のもとに実習が行われた」[15]。また、彼女達は知識と同時に品性と規範を守ることも厳しく教育された。

その理由は、当時の英国の看護師のイメージは無知で不潔で下品で医学的知識などなく、特別な技能も要求されていなかった[16][17]。背景には貧困女性の就ける職業の不足や、不十分な賃金、それらを保護する社会制度の欠如があると指摘されている[16]。したがって身持ちが悪いことで評判の高かったこの職業の中にあって、F. Nightingaleは「無知でふしだらな女」[16]という病院看護師の通念を否定していくことが期待され、彼女達は期待に応えていった。

設立されたナイチンゲール看護学校が軌道に乗ると「1861年末、ナイチンゲール基金出資の第二の試みとして助産婦訓練学校が設立」[18]された。「キングス・カレッジ病院当局の協力を得て産科病棟が整備され、病院の産科医が6ヶ月間の訓練に協力する」[18]ことになった。しかし、開校から6ヶ月後、キングス・カレッジ病院で産褥熱による高死亡率が記録されたため、残念ながら閉校[19]を余儀なくされた。その後F. Nightingaleは何度か助産師学校を再建するように依頼を受けたが、応じることはなかった。だが、1870年代にはロンドンのほとんどの教育病院はF.Nightingaleの「理論と実践を結びつけた教育」、ナイチンゲール方式の看護教育を採用した[20]。

日本でもそれを範として1884（明治17）年10月に現在の東京慈恵医科大学の学祖である高木兼寛はMary. E. Read（米国・看護師）を米国から招き、『有志共立東京病院看護師教育所（2年制）』で教育を開始した。F. Nightingaleは「看護教育は看護師の手で」という強い主張の持ち主であったため、高木は米国でナイチンゲール看護師教育を受けたリードを招聘したと「慈恵看護教育130年史」には書かれている。高木もまた、St.Thomas' Hospital医学校に5年間留学をしており、医学研修中にナイチンゲール方式の看護に触発されたと推察される。

このようにして、ナイチンゲール方式の看護教育は20世紀までに約20か国で導入[21]された。

F. Nightingaleは、看護師を教育することは、看護をよりよくし、医療をよりよくすることであり、看護師の職業階級をよりよいものにしていくであろうと述べている[21]。F. Nightingaleの専門職としての看護教育とその理念は、Kings' College London 2020 UNDERGRADUATE GUIDEに紹介されていた看護師・助産師学部に脈々と受け継がれていた。

（梅村美代志）

（写真14）Kings' College London内にある、大学公式マスコットライオンの「レジィ」。複数回の盗難にあった経緯があるとか。

（写真 15）説明後に大学内を案内していただいて

（写真 16）冬季にはスケートリンクが設営される歴史的建造物の大学広場。訪問した日に、リンクは片づけられていた。

6．F. Nightingale の故郷を訪ねて
―St. Margaret's Church―

1）F. Nightingale の故郷と St. Margaret's Church

英国南部ハンプシャー州は、London で滞在したホテルからバスで 2 時間程の農業と酪農が盛んな地方である。そのハンプシャー州 East Wellow に St. Margaret's Church（London 市内にも同じ名前の教会があるが関連は不明）がある。

教会に向かう道は途中でバスが進めなくなるほど狭く、道の側には広大な養豚場があり、『田舎の小さな教会』それが、St. Margaret's Church に到着した時の印象であった。F. Nightingale は「死とは“故郷に帰ること”であり、死とは新たな奉仕の時期に入ることであり、完成の過程に入ることである」と繰り返し述べている[22)]。St. Margaret's Church は両親が眠るところであり、F. Nightingale にとっては家族と共に安らげる故郷の教会であった。

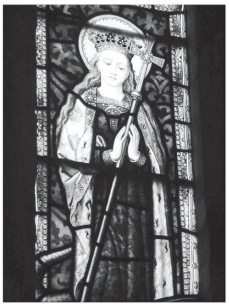
St. Margaret's Church の入り口の右手には小さな戦争の墓碑があり、その先の小さな木の門をくぐると石造りの教会へと進むことができた。私たちの目に飛び込んできたのは、広い墓地の中央にたつ白い F. Nightingale の墓碑であった。墓碑は曇り空の下でも神々しく白く輝き、私たちは歓声を上げて墓碑に吸い寄せられるように進んだ。

墓碑には黄色の水仙が手向けられ、緑の芝生と白い墓碑と黄色の花のコントラストが一段と光輝いて見えた。ここには、London とは異なる空の広さ、雲の流れ、風のそよぎと鳥のさえずり、そして静寂が

（写真 17）St. Margaret's Church の入り口近くの小道に

（写真 18）St. Margaret's Church の門

（写真 19）F. Nightingale の墓碑



（写真 20）
St. Margaret's Church とその内部

あった。F. Nightingale の遺言で「十字架、イニシャル、1820 年 5 月 12 日に生まれ 1910 年 8 月 13 日に没す」とのみ刻まれた墓碑からは、F. Nightingale の気品と気高さを感じとることができた。

St. Margaret's Church は石と木材で建てられた小さな教会で、外壁の石や入り口の木造からはとても古く、長年の雨風で浸食され壊れてしまいそうな外観であった。しかし、内部は複数のステンドグラスから明るい外光が差し込み、パイプオルガンや祭壇があり、その一角には F.Nightingale に関する資料や写真がたくさん飾られていた。姉との写真、戦地のスケッチ、80 歳のころの病床での写真など、教科書や Florence Nightingale Museum で目にした同じ写真が、いくつも飾られていた。現在も St. Margaret's Church は F. Nightingale と共にあり、世界中から人々が訪れ、F. Nightingale の功績を偲ぶとともに、看護師の誇りを実感できる場所となっていた。私たちは、来訪者のノートに記帳させていただいた。

（写真 21）Florence Nightingale は、歴史上のヒロインとなった。クリミア戦争から帰還してから、彼女は体調を崩したが、慈善運動の指導的な存在として活躍し続けた。ウエストミンスター寺院より、遺族に国葬を打診されたが、すでに彼女の遺書で静かな葬儀を行うことが希望されていたため、それは丁重に辞退された。そのため、彼女は両親が眠るハンプシャーのウエストウェローに埋葬され、セントポール大聖堂で追悼式が行われた。（新聞は聖徳大学図書館所蔵：写真複製）

2）THE ILLUSTRATED LONDON NEWS の記事から

THE ILLUSTRATED LONDON NEWS の 1910 年 8 月 20 日号には、『ランプの貴婦人：St. Thomas' Hospital における故 Florence Nightingale 女史』の記事で、F. Nightingale の功績と葬儀に関する記述が確認できる。

3）墓碑の前から書簡集を通して描かれた F. Nightingale に思いを寄せて

F. Nightingale の墓碑の前に立ったことで、帰国後、あらためて F. Nightingale がなぜ看護に人生をかけて取り組むことができたのか、何を目指しどのように看護を育てていきたかったのかを確認したくなった。

F. Nightingale は宗教心に熱くカサンドラ（思索への示唆 1860 年発表）にはその信仰の深さを感じさせる表現がいくつも挙げられていた。この時代では最先端の考え方であった『女性が職業に従事すること』を夢に描いた F. Nightingale は、なぜ職業の中から看護の道を選ぶことができたのか。私は、F. Nightingale が、若いときから熱心な宗教心をもって生と死を深く広くみつめ、人々の命を救う看護の仕事の重要性に気がついたのだと考えた。19 世紀のイギリスの診療所は「大きな病室には、すし詰めにベッドが並べられ、床や壁には血や糞尿が染みついていて不潔極まるものであった」[23] ため、上級家庭出身である F. Nightingale にとって想像を絶する劣悪な環境であった。F. Nightingale は看護師の道を『神に仕える形』としてその身を生涯貫いた。特に 1846 年の終わりから 1851 年の 6 年間、F. Nightingale は看護師見習いとして過ごした体験を、「神に仕えるのにふさわしくないので、神が罰しているのだと信じていた」[24] とあるように、その苦しみや怒りや葛藤もすべて神の御示しとして受け入れた。つまり、深い宗教心によって看護の基盤がつくられたものと推察する。それを

書簡（1872年5月から1900年5月のものが掲載）の中で何度も述べているので一部を紹介する。

キリストは「収税人や遊女たちとともにいるときでさえも」、その権威と威厳と品位とを失うことはなかったといわれていますが、それはちょうど私たちが病棟で、高い品位を身につけているのでかえってなんのこだわりもなく汚れ仕事や荒仕事に手を下すような人を、ときどき見かけるのと同じことです。[25]（書簡二）

またF. Nightingaleは看護師の服装にまで気を配った。服装のたとえもキリストになぞらえて始まり、野の花にたとえて看護師としてふさわしい服装を説明している。

あなた方は、キリストが野の花を私たちの服装のあり方の例としてあげられたのを覚えていますか？（略）第一に、野の花の「服装」は、その生えている場所にも、そのなすべき働きの種類にも、まさにふさわしく装われているのです。私たちの服装もそうでなくてはなりません。第二に、野の花の中には決して八重咲の花はありません。（略）野の花は、その美の中にも目的を持っているのです。服装もそれと同じで、目的のないものはつけないことです。[26]（書簡五）

書簡を通してレディとしての振る舞いや模範となることを看護師に求めたF. Nightingaleの姿を描くことができた。しかしながらF. Nightingaleの目指した看護師の振る舞いと看護師の品位を保つことができているのか、看護はどうか･･･と自問すると、改善すべきことをたくさん発見できた。そして今日も私たちが訪れた時と同じようにF. Nightingale の墓碑には、野の花が手向けられているであろう。（山田恵子）

7．Londonの町と在宅医療について－Harley Streetの医療施設群、Royal College of Nursing －

医療施設が多く存在するLondon のHarley Streetとそこから徒歩5分ほどのRoyal College of Nursingを訪れた。

1）Harley Streetの医療施設群

Harley Streetは、F. Nightingaleがクリミア戦争に赴く前の33歳の時に、慈善病院で監督者を務め、改革を実践していた地であり、戦争大臣であるSidney Herbertと慈善活動をしていた地である。現在は、医療施設が集合する地域としてその面影を残している。

2019年におけるGP（家庭医療専門医）は44,847人、病院専門医は119,597人である[27]。かつて英国は、「ゆりかごから墓場まで」といわれたように、生まれてから亡くなるまでGP 1人を登録する「かかりつけ医制度」であったが、近年は医療機関1つを登録する「かかりつけ医療機関制度」になっている。複数の医師が「グループ診療」をしており、国民はかかりつけ医療機関の医師の中から、自由にかかりつけ医を選択することができる。

病院での入院日数の短縮に伴い、療養の場が地域に移行すると、在宅療養者に対しても質の高い医療が求められる。GPは、プライマリー・チームとして、看護師やソーシャルワーカー、各科の医師と連携をとる。驚くことに、かかりつけ医療機関に勤務する看護師は、薬剤の処方をすることが可能であり、患者の診察をする[28]。GPは、必要に応じて他科の医師や他の医療機関を紹介し、介護支援専門員などと情報を共有することで介護と医療の連携も図る役割を

（写真22）かかりつけ医療機関（診療所）が集合しているHarley Street

果たしている。

かかりつけ医療機関は、外来診療、電話相談、在宅診療など、利用者のニーズに合わせた多様なサービスを提供する。食生活、運動、喫煙、飲酒などの生活習慣に関するアドバイスや、予防接種や検診などの予防も含めて、個人･地域の健康に貢献している。私たちの研修期間は、新型コロナウィルスがまさにヨーロッパに流行が始まろうとするところであり、現地通訳の人は、「GP からメールが届いている」と言っていた。また、「看護師が高齢の祖母の家には１週間に５日訪問する」といった在宅医療の実際を聞くことができ、日本との違いを肌で感じることができた。

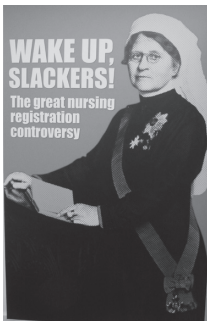
２）Royal College of Nursing

Royal College of Nursing は 1916 年に設立され、1928 年に王室の憲章を授与された英国最大の看護労働組合と専門機関である。看護師、助産師、看護学生等の会員は約 450,000 人である。会員に対しては、法的支援、キャリア支援、カウンセリング・入国相談などのほか、学習資源の提供を行っている。施設内は、図書館や、F. Nightingale をはじめとする歴史的に著名な看護師の像や写真、看護に関連する資料や物品の展示があった。

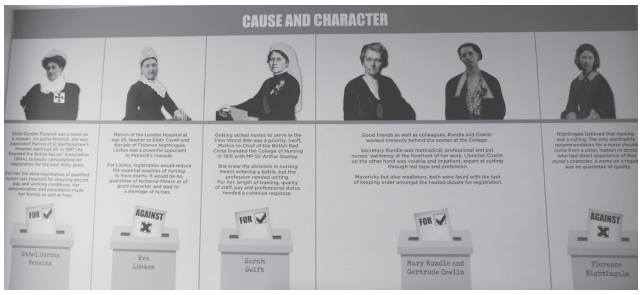
冬の冷たい空気と曇り空の下、Harley Street の病院を舞台とした若き日の熱意ある F. Nightingale の姿とクリミア戦争から帰国した後も精力的な活動で看護教育に貢献した姿に思いを馳せ、看護の深淵を感じた日であった。（駿河絵理子）

（写真 23）Royal College of Nursing 内部　（図書館）

（レゴで作成されていた）



看護師登録制度に関する展示。1886 ～ 1893 年まで論争が続き、1919 年に英国看護師登録法が可決された



（写真 24）London 市内の F. Nightingale の家の後にプレートのみが今も残されている

８．F. Nightingale 生誕 200 年祭に寄せて
ー Dr. Elizabeth Mason-Whitehead の講演ー

（写真 25）Dr. Elizabeth Mason-Whitehead

University of Chester 医歯薬部教授、Chester Medical School 学長である Dr. Elizabeth Mason-Whitehead から「F. Nightingale の生涯と彼女が残し今日まで語り継がれている遺産ともいえる功績について」の講義を受けた。2020 年 5 月 12 日に F. Nightingale の生誕 200 周年記念イベントのメインとして開催される予定の講義を先行し、私たちのために特別に行っていただいた大変貴重な質疑応答を含む約 1 時間のレクチャーであった。なお、5 月 12 日のイベントはコロナ禍によりオンラインとなった。そのため対面でレクチャーを受け、Dr. Elizabeth Mason-Whitehead を通して F. Nightingale の実像に触れることができたことはとても感慨深いものがある。

講義は、F. Nightingale 生涯最後に撮影された写真を背景に「晩年も失明、床上で過ごしながらも今、何

が起こっているのかと社会情勢に関心を持ち多くの情報を得ていた」との紹介から始まった。F. Nightingale は 1820 年 5 月 12 日、英国北部の裕福な家庭に生まれた。充分な教育が施されたことや、父親からの影響を受け育ったことなどが語られた。当時の英国の社会体制は、Victorian 時代（1837 年～ 1901 年）であり、産業革命による経済の発展による大英帝国の絶頂期であった。産業資本家の勢力が伸展する中、上流階級の出現と貧困や劣悪な住居、児童労働などの社会問題もあったことが説明された。またその時代の看護師は、飲酒する姿で描かれているなど、教養も専門的な教育も必要とはされていない身分であったことが明かされた。そして、F. Nightingale が看護師になるきっかけは、16 歳の時「神に仕えなさい」との神のお告げを受けたことにあることが語られた。しかしその時代、社会的評価が低い看護師と充分な教育を受け教養もあり何の不自由もない F. Nightingale とを繋げることは想像しがたい。語られた F. Nightingale の人物像は、「従順であり進歩的」であったことから、常に社会と何をすべきかを考えていたことが感じられ、F. Nightingale の 3 重の関心（知的、技術的、心のこもった人間的）をあらためて実感する機会となった。

F. Nightingale は独国で看護のトレーニングを受けた後、看護師として働きながら病院の改革に取り組んでいる。1854 年 34 歳の時、クリミア戦争の軍事基地に看護団団長として赴くことになる。 Dr. Elizabeth Mason-Whitehead は、その出発前に撮影された F. Nightingale の視線がカメラには向いていなかったと述べた。F. Nightingale の「目を向けるべきことは仕事である、外に目を向けることが重要である」と仕事に向かう姿勢が紹介され、重ね重ね、F. Nightingale の関心事は社会であり、自分は何をすべきかといった軸が揺らぐことがないことを実感させられた。

Dr. Elizabeth Mason-Whitehead は、クリミア戦争（1854 年～ 1856 年）の戦場に派遣された看護団の看護師数は当初 39 人（内 15 人は修道女）であったが、素行不良者 1 人が帰されたため 38 人（内 15 人は修道女）であったと説明した。そして看護師に用意された「ユニフォームのサイズがワンサイズ」であったことや F. Nightingale が「ブーツの支給を要求した」と、当時の看護への関心の低さと無理解さを感じさせられるエピソードが語られた。しかし、同時に戦争大臣や戦争で利益を得た人々からのサポートを得ることもできていたという紹介もあったことで、F. Nightingale が上級家庭の出身であったことでの豊かな人脈と F. Nightingale をとおして看護が理解され、社会的評価が高まっていった経緯が感じられた。F. Nightingale は後に、貧しい病人のための看護について、「貧しい病人の真の看護を必要とする人々のベットサイドに真の看護、つまり訓練をされた看護を提供するには全てお金が必要である」としていることからも、資源を調達するための政治的な力も兼ね備えていたことが伺える。

クリミア戦争での活躍が「ランプの貴婦人」と呼ばれタイム誌に掲載されたことや F. Nightingale の多くの肖像画が残されているとの説明に至っては、人々に F. Nightingale の慈悲深さが印象付けられ、認知度が高まっていったことが容易に推察できる。さらに F. Nightingale は統計学者でもある。「鶏のとさか」と呼ばれた円グラフでクリミア戦争における傷病兵の死亡原因を視覚化していることの説明を受け、あらためて、社会的問題や健康問題を客観的に捉えることの必要性を認識させられた。

このレクチャーで、Dr. Elizabeth Mason-Whitehead は、Mary Seacole を F. Nightingale とは折り合いが悪かった人物として紹介した。ジャマイカから Albert Edward 王子の招きで英国に渡り、王室の世話や看護活動を行ったとされている。F. Nightingale とは対照的に知名度は高くはないものの、近年その評価が高まっているとの紹介があった。英国における看護の歴史と看護の基礎を築いた人材の豊かさに感動を覚える機会となった。

クリミア戦争から戻った F. Nightingale は、ナイチンゲール看護学校（The Nightingale Training School St. Thomas' Hospital）を設立し看護教育を開始し、考案した F. Nightingale 病棟（窓、ベッドの高さ、ベッド間の距離等の配慮）と呼ばれている病院建築を行い、多くの著作を残していることが説明された。

そして、Dr. Elizabeth Mason-Whitehead より、F. Nightingale が残した 5 つの遺産（教え）についてのレクチャーを受けた。1 つめは、『教育を受けた看護師が必要である』こと、2 つめは、『看護師は危害を与えない、害を与える環境であってはならない』ことである。NHS の The 6C は、F. Nightingale の 6 つの規則：

Care（世話）Compassion（思いやり）Capacity（能力）Communication（コミュニケーション）Courage（勇気）Commitment（責任をもってやること）に則っているとのことであった。そして、3つめは、『第1次世界大戦における戦争中の看護師の果たす役割の明確化』、4つめは『Public Health（公衆衛生）が重要である』こと、5つめが『看護教育が必要である』ことである。加えて、F. Nightingale 看護教育として過去のことが分からなければ今後の行く方向も分からないと「看護の歴史を学ぶこと」の大切さや、「エビデンスベースで看護を行うこと」、そして、「リフレクションが大切」であり、「反省するには勇気が必要」であることを述べた。それは、F. Nightingale 自身が、クリミア戦争での兵士の死亡率が高かった原因がわからず、当初は「十分な食料や適切な治療が必要であること」が原因だと考えていたが、「衛生状態が悪いことが分かり始めて、下水道の整備や清潔を保つことの重要性が認識されていった」のであった。このことから、間違っていたことを認める勇気が必要であり、教訓を学んでこそ、進展があると述べていた。

Dr. Elizabeth Mason-Whitehead は、最後に「学習、実践、改善であることが必要であり、そしてこれらが分かるには150年、200年間かかってしまった」とレクチャーを締めくくった。勇気は実践を検証することであり、検証結果で誤りがあれば反省し、反省を改善の力とすることは、F. Nightingale の看護教育学者として私たち看護職の姿勢や心構え、持つべく倫理観としての基礎となるべき教えであるのではないだろうか。今回のレクチャーは「F. Nightingale の生誕200周年」のために用意されたものであり、まさに F. Nightingale の教えを学び直す機会となった。（小林れい子）

講演を終えて

9．英国におけるシミュレーション教育の一端にふれて
ー Glasgow Caledonian University シミュレーションセンターー

Scotland にある GCU（Glasgow Caledonian University）を訪れた。看護学部の Dr.Gordon Hill と Tom McAlear が案内してくれた。GCU は、学生数1700名の総合大学であり、Glasgow、London、New York の3か所に大学を有している。実践的な学びを提供し、専門職を育てていることが特徴である。

看護学部における看護実践の分野は、成人看護、小児看護、発達障害看護、メンタルヘルスの4つに分かれている。英国では、自宅で亡くなる人が増え、Home Care が重要になっていることから、卒業後の進路として、病院だけではなく、地域看護にも力を入れているとのことだった。

1）看護学科の学生インタビュー

公衆衛生看護分野の修士課程に所属している Craig Davidson の話を聴くことができた。彼は、英国の最優秀看護学生に選ばれたとのことだった。「GCU は、英国の NHS の病院と同じ設定のシミュレーションセ

（写真26）GCU 外観

（写真27）Dr.Gordon Hill に説明いただいた

ンターがあり、実践的に学ぶことができるし、学生の意見を取り入れてくれ、対応してくれる大学だ。英国の看護師は、社会的な地位があり、市民に信頼されている職業。プライドを持って仕事をしていきたい」と話してくれた。

2）講義を見学

実際に、看護学科1年生の講義（薬の管理に関する内容）を見学させていただいた。学生から手が挙がり、「誤薬をすることは、どれだけダメージがあるか」と質問していた。30人程度の少人数のクラスであり、質問しやすい雰囲気であった。学生は、ノートをとったり、パソコンに直接アクセスしたりしながら、講義を受けていた。教材は、オンラインアクセスで入手するそうだ。

3）シミュレーションセンター見学

GCUのシミュレーションセンターの大きな特徴は、NHSの病院の構造・設備と同じ部屋が設置されているという点である。また、リアルタイムにNHSの基準に合わせ、UP Gradeされており、NHSと同じ設備、同じ物品等で演習を行い、すぐに実践に活かせるようになっていた。6床を有する演習室が3部屋あり、見学時はユニフォームを着た学生たちが、点滴の演習を実施しているところであった。演習は12～15人のグループで実施しているそうだ。高機能シミュレータであるSimMan3Gも設置されており、緊急対応のシミュレーションも実施されているそうだ。

その他、在宅看護の演習にも力を入れており、英国の一般的な在宅の部屋が再現されていた。英国も、高齢者は増加しているため、介護ホームの部屋もあっ

（写真28）GCUのシミュレーションセンター　入り口

（写真29）NHSと同じ構造の演習室の前にて

（写真30）GCUにあるSim Man3G

（写真31）在宅を再現した演習室

（写真32）英国の介護ホームを再現した演習室

た。また、この施設を看護学部だけで使用するのではなく、他学部（作業療法士や法医学等）と共同で施設を使用しているという。

4）シミュレーション教育について

聖徳大学看護学部は、シミュレーション教育を取り入れた実践的な教育を実施し、教員はハワイ大学看護学部での研修や、INACSL（International Nursing Association for Clinical Simulation and Learning）への参加から、日本以外のシミュレーション教育の現状を視察してきた。今回、英国を訪れ、GCU に設置されているシミュレーションセンターを見学することができた。GCU でのシミュレーション教育は、NHS の病院の構造と同じ環境の中で演習することによって、即戦力としての実践力を養うことに主眼が置かれていると感じた。ハワイ大学では、「できる、できない」ではなく、思考力を高めることに主眼が置かれており、本学もハワイ大学に準じた教育方針でシミュレーション教育を実施してきた。GCU では、シミュレーション教育に特化した教員のトレーニング等はなく、各専門の知識を持った教員が担当していた。シミュレーション教育で求める実践力として、何に主眼を置くか、各国または各大学において異なっていることを実感し、本学における教育の在り方を再考する機会となった。（高山詩穂）

10. おわりに

「天使とは、美しい花をまき散らす者ではなく、苦悩する者のために戦う者である」この言葉は、ナイチンゲールの名言としてだれでもネットで検索することができる。私は、この言葉の原文はどうなっているのだろうかと思いながらもこれまで確認をしてこなかった。今回英国への研修を終え改めて、F. Nightingale の功績について考えるなかで原文にあたりたいと思った。原文は「The Angels are not they who go about scattering flowers : any naughty child would like to do that, even any rascal. The Angels are they who, like Nurse or Ward-maid or Scavenger, do disgusting work, removing injury to health or obstacles to recovery, emptying slop, washing patients, etc., for all of which they receive no thanks. These are the Angels.」[29] となっていた。先のネット上にある名言の訳・意味とは明らかに異なっている。とても驚いた。F. Nightingale 研究者の金井一薫氏は「ネットで紹介されている文章とは、意味合いがずいぶんと異なっていることがわかる。原文では天使とは苦悩する者のために“尽くす者”というニュアンスがあるが、ネットではそれがいつの間にか“戦う者”に変化している」と述べ、「天使とは、美しい花をまき散らしながら歩く者ではなく、人を健康へと導くために、人が忌み嫌う仕事を、感謝されることなくやりこなす者である。」と訳すべきだろうとしている[29]。

今回の研修を通して、私がこれまで抱いていた F. Nightingale 像をより深めることができたことは大きな収穫であった。さらに、報告書をまとめる過程においても新しい発見がいくつもあった。先に述べたネット上の名言もその一つである。源流を探ること、原典に当たることの重要性を再認識した研修でもあった。今回の多くの学びは参加したそれぞれの教員の看護観と教育観をより広く深いものへと変貌させる契機になると信じている。

本研修の帰国後に新型コロナウィルス感染症が世界中に蔓延し、F. Nightingale の生誕 200 年を祝う世界の様々な行事も中止や縮小せざるを得ない状況になったことは大変残念であった。本報告にもあったように 5 月に予定されていた Dr. Elizabeth Mason-Whitehead の記念公演はオンラインへと変更になったそうである。そして、この報告書を書き終えるころ、私たちが訪れた Florence Nightingale Museum が入館者の激減により閉館となったニュースに遭遇し、今回の研修がどれほど貴重な機会であったかを痛感し、また、いつか行きたいと切に思う。

最後に今回の研修の企画段階から大変お世話になった TPJ 菅原明夫氏と現地で細やかな調整をいただいた JAL PAK の川本秀之氏に心から感謝申し上げる。安全で充実した研修を終えることができたのはお二人のご尽力のおかげである。

（水戸美津子）

＜文献＞

1）平野かよ子：Ⅱ．基本となる概念　公衆衛生，中西睦子監修，井伊久美子，平野かよ子編，実践地域看護学，P23-29，建帛社，東京，2009.

2）平山朝子，宮地文子，他：第１章 公衆衛生看護とはなにか－定義，目的，原則，第３版
公衆衛生看護学総論１，平山朝子，宮地文子編集，P4-12，日本看護協会出版会，東京，2002.

3）徳永哲：19 世紀中ごろのリバプールとナイチンゲール，日本赤十字九州国際看護大学 intramural research report，(8)，P31-41，2010.

4）The Old Operating Theatre - The History of Old St Thomas' Hospital，http://oldoperatingtheatre.com/history/history-of-old-st-thomas-hospital （閲覧 2020.6.24）

5）Guy's and St Thomas' - Our History - Florence Nightingale https://www.guysandstthomas.nhs.uk/about-us/our-history/florence-nightingale.aspx#na（閲覧 2020.6.24）

6）徳永哲：英国における看護と看護教育の歴史，英国・アメリカ合衆国・オーストラリアの看護師要請教育における文化ケアプログラム．平成 26 年度学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する助成研究報告書，P1-19，2015.

7）Florence Nightingale Museum - Our Collections https://www.florence-nightingale.co.uk/history-of-the-collection/（閲覧 2020.6.24）

8）福田邦三，永坂三夫他：ナイチンゲールとセント・トーマス病院．日本看護協会出版会，東京，2020.

9）茨木保：ナイチンゲール伝図説看護覚え書きとともに，医学書院，P38-73，2016.

10）エルスペス・ハクスレー著；新治弟三，嶋勝次共訳：ナイチンゲールの生涯，メジカルフレンド社，P58-85，1981.

11）リン･マクドナルド著;金井一薫監訳;島田将夫,小南吉彦訳:実像のナイチンゲール，現代社，P160-218，2015.

12）多尾清子：統計学者としてのナイチンゲール，医学書院，P3-88，2018.

13）加藤文子：イギリス産業革命と 19 世紀医療衛生政策－ナイチンゲールの業績への社会政策的評価－，実践女子大学人間社会学部紀要　第六集，P177-197，2009.

14）我妻知美：ナイチンゲールの看護の本質はどのように伝えられたか，教授学の探求，23，P111-121，2006.

15）永易裕子，佐藤美恵子他：国内外における大学教育及び看護教育の変遷，日本赤十字秋田看護大学紀要・日本赤十字秋田短期大学紀要　第 18 号，P45-55，2013.

16）ナイチンゲール：湯槇ます監修，薄井坦子他訳：ナイチンゲール著作集 第１巻 第２版，現代社，P39-42，1983.

17）佐々木秀美：ナイチンゲール教育思想の源流　日常生活は心に問いを抱かせ，知性はその問いに答えを要求する－フローレンス・ナイチンゲール－，広島文化学園大学看護学統合研究 12（1），P42-68，2010.

18）Cecil Woodham-Smith（1950），武山満智子・小南吉彦訳：フロレンス・ナイチンゲールの生涯［下巻］，P59-61，1981.

19）岩田恵理子：あなたの知らないナイチンゲール米国ナースが目指す 21 世紀の看護マインド第７回「ナイチンゲールの挫折　軌道に乗せられなかった助産師教育」，Nursing BUSINESS 6（10），P64-67，2012.

20）小山真理子，看護教育講座１看護教育の原理と歴史，医学書院，P102-134，2003.

21）日本赤十字九州国際看護大学研究グループ：英国・アメリカ合衆国・オーストラリアの看護師養成教育における文化ケアプログラム，日本赤十字九州国際看護大学学術リポジトリ 2015.

22）11）に同じ

23）10）に同じ

24）23）に同じ

25）ナイチンゲール，湯槇ます監訳　ナイチンゲール著作集第三巻　現代社 P296，2003.

26）ナイチンゲール著，湯槇ます監訳　ナイチンゲール著作集第三巻，現代社 P363，2003.

27）Healthcare Workforce Statistics：England March 2019，https://digital.nhs.uk/data-and-information/publications/statistical/healthcare-workforce-statistics/march-2019-experimental，（閲覧 2020.6.29）

28）白瀬由美香：イギリスにおける医師・看護師の養成と役割分担，海外社会保障研究，174，P52-63，2011.

29）金井一薫：ナイチンゲールの名言秘話，看護教育，第 55 巻第 9 号，P844-847，2014.

注）検討した文献の多くは看護師の名称が「看護婦」表記になっていたが、ほとんどが翻訳であることから表記は看護師に統一した。